

東村山三田会 創立 10 周年記念誌

目 次

I	会長挨拶	1
II	沿革	2
	1. 設立まで	
	2. 10年間の活動	
III	情報発信	12
	1. 会報	
	2. ホームページ	
IV	同好会活動	13
	カラオケ同好会 麻雀同好会 俳句同好会 あるいて三田会東村山 スケッチ同好会 ゴルフ同好会 ボウリング同好会 食べ歩くかい？	
V	会員からの寄稿	21
	松田 博 (S39 文) 小島安雄 (S43 経) 櫻井正廣 (S46 経) 中西良行 (S49 政) 田中康之 (S52 経) 河崎賢一 (S52 工) 坂本正典 (S54 商) 青木潤一 (S59 経) 朝木直子 (H4 文) 特別寄稿 デュオの会 上野亜依さん	
VI	資料	31
	1. 会員名簿	
	2. 会 則	
	3. 役員履歴	
	4. 東村山市の塾員分析	
VII	編集後記	35

I 会長挨拶

会長 給田俊哉（S43 法）

「東村山三田会」は、2011 年からの同会設立の為の準備期間を経て 2014 年 4 月 19 日に設立され、2024 年 4 月をもって創立 10 周年を迎えます。

当三田会が運営面で活発な活動が現在できている背景は、当会設立に向けて活動いただき初代会長としても 4 年間貢献された松田さん、創立時の立役者であり役員としてご尽力頂いた清水さん、加藤さん、澤田さん、初代幹事長として貢献された河邊さん、さらに、歴代役員の皆様のご尽力に負うところが大きく、今回の当会創立 10 周年記念を迎えるにあたり、改めて先輩諸氏に感謝の意を表する次第です。



私、給田俊哉は 2018 年 4 月 21 日開催の第 4 回定期総会にて 2 代目会長として就任し、副会長の熊谷さん、斉藤さん、幹事長の田中さん、その他役員の皆さんと共に、この記念すべき 10 周年を迎えることとなります。

当会会則第 2 条に、「本会は、会員相互の親睦・交流を深めるとともに、地域社会の発展に貢献することを目的とする」とあります。

コロナ禍の時期を除きますと、会員の皆様と共に同好会活動や Xmas パーティー、毎年 3 回開催の会員誕生日お祝い会、地元稲門会・近隣三田会との交流などを通して会員相互の親睦・交流を深めることが定着してきました。

また、地域・社会貢献につきましても、意義のある企画を計画・実行してゆくことで、結果的に地域・社会の発展の貢献につながるような務めて参りました。

具体的には、慶應義塾大学連合三田会に対して毎年の大会への協賛を行なっています。

また、過去 6 回にわたり、地元の若手ソプラノ・ピアノ奏者の設立した DUO の会のコンサートへの経済的サポートとヴァイオリンの賛助出演を通じ、会員及び市民の皆様も楽しんでいただける企画が定着してまいりました。

今後も既存の各種企画についてその内容を拡充するとともに、多少手間と費用が掛かることから一工夫が必要ですが、新たな企画も検討し、広く会員及びご家族の皆様、ひいては市民の皆様にも楽しんで頂ける企画の実現を通して当会の更なる発展につなげたいと考えております。

改めまして、次の 10 年に向け、役員はむろん、会員の皆様・ご家族の皆様の引き続いてのご協力を頂き、当会の一層の発展を祈願する次第です。

（現行役員体制）

会 長	給田 俊哉	S43 法	副会長	熊谷 正美	S43 政
副会長	斉藤 忠義	S44 商	幹事長	田中 康之	S52 経
会 計	相川 孝訓	S51 工	役 員	廣田 眞一	S45 政
役 員	河崎 賢一	S52 工	役 員	坂本 正典	S54 商
役 員	朝木 直子	H 4 文	監 査	櫻井 正廣	S46 経

II 沿革

1. 設立まで

2011年9月	東村山三田会発足に向けて 松田 博さんがいくつかの近隣三田会から東村山での三田会設立の要請を受け、東村山三田会立ち上げの動きが始まりました。
2012年6月、8月	BRB ニュースに記事掲載 松田 博さんが BRB ニュースに記事を掲載しました。 「東村山三田会設立準備中、ぜひご参加を」と呼びかけました。
2012年9月～ 2013年7月	三田会設立準備の作業開始 塾員センターを訪問して設立に関するアドバイスを受けました。 塾員センターから東村山市在住の塾員名簿をいただきました。 協力してくれる塾員を募り、以降、三田会発足に向けて具体的な方策・手順の打合せを行ない、準備を進めていきました。
2013年8月	東村山三田会発足予定のご案内 いただいた塾員名簿をもとに、429名の塾員に対して、東村山三田会の発足と設立準備会開催の案内を発信しました。 148名から回答をいただき、内113名の塾員から三田会設立の賛同を得ました。
2013年9月・10月	設立準備会の開催に向けて 11月の設立準備会の開催に向けて打合せを重ね、準備会の進行や式次第、資料の作成・確認を行ないました。
2013年11月4日	設立準備会 サンバルネホールで開催しました。(塾員60名出席) 三田会設立趣旨の説明、会則案の説明を行ないました。 その後、参加者の自己紹介と懇親会を開催しました。
2014年2月	設立総会開催のご案内 三田会設立にご賛同いただいた113名の塾員に、4月の設立総会開催の案内を発信し、改めて入会の意思を確認しました。



《東村山三田会(設立準備中)へのお誘い》
東京都東村山市在住の慶應義塾卒業生の皆様

BRB ニュース



設立準備会

II 沿革

2. 10 年間の活動

2014 年度	
2014 年 4 月 19 日	<p>設立総会（会員数 88 名）</p> <p>サンパルネホールで開催しました。（来賓 14 名、会員 63 名出席）</p> <p>東村山三田会会則、役員、事業計画、予算を承認しました。</p> <p>初代会長松田 博さん、初代幹事長河邊 喬さんが選出されました。</p> <p>総会終了後は懇親会を開催し、同好会の会員募集を行ないました。</p> <p>この日が東村山三田会の発足の日となります。</p>
2014 年 10 月 31 日	<p>会報創刊号発行</p> <p>会員相互の情報共有のツールとして会報を発行しました。</p> <p>以降年 2 回発行し、現在第 17 号まで発行しています。</p>
2015 年 02 月 07 日	<p>新年会</p> <p>サンパルネホールで開催しました。（来賓 9 名、会員 49 名出席）</p> <p>アトラクション：和太鼓演奏（ドドーン稲妻ボンバーズ）</p> <p>松濤館流空手演武</p>



設立総会



会報創刊号



新年会



和太鼓演奏



空手演武

II 沿革

2. 10 年間の活動

2015 年度	
2015 年 4 月 18 日	第 1 回定期総会（会員数 87 名） サンパルネホールで開催しました。（来賓 16 名、会員 41 名出席） アトラクション：落語（柳亭こみちさん）
2015 年 9 月 26 日	第 1 回誕生会 会員相互の親睦を更に深めるため誕生会を企画しました。 以降、年 3 回開催し、現在までに 15 回開催しています。
2015 年 11 月	ホームページ 三田会会員斉藤忠義さんにより、東村山三田会のホームページが立ち上げられました。 会員間の情報共有、活動紹介などに重要な役割を果たしています。
2015 年 11 月 21 日	忘年会 サンパルネホールで開催しました。（来賓 2 名、会員 33 名出席） 今回から、恒例のビンゴゲーム大会を始めました。 アトラクション：東村山市マンドリンアンサンブル、ビンゴゲーム
2016 年 1 月 24 日	第 1 回講演会（サンパルネホールで開催、約 70 名参加） 演題 「私たちが星空から学んだこと」 講師 多摩六都科学館 高柳雄一館長



第 1 回総会



柳亭こみち



第 1 回誕生会



忘年会



マンドリンアンサンブル



第 1 回講演会

II 沿革

2. 10 年間の活動

2016 年度	
2016 年 4 月 23 日	第 2 回定期総会（会員数 89 名） サンバルネホールで開催しました。（会員 32 名出席） 松田 博会長、河邊 喬幹事長が再任されました。
2016 年 10 月 30 日	デュオの会コンサート協賛（富士見公民館ホールで開催） 会の活動方針の一つである“社会貢献”として、デュオの会が主催するコンサートへの協賛を始めました。 以降、毎年協賛を行ない、幼児から参加できるクラシックコンサートとして、広く一般の方にも鑑賞いただいています。 現会長給田俊哉さんがヴァイオリンの演奏で毎回客演しています。
2016 年 11 月 23 日	忘年会 サンバルネホールで開催しました。（来賓 7 名、会員 32 名出席） アトラクション：ヴァイオリン演奏（給田俊哉さん）、廻田町囃子連 ビンゴゲーム
2017 年 1 月 28 日	第 2 回講演会（サンバルネホールで開催、約 55 名参加） 演題「地球史で見る気候変動と日本列島地震帯の形成」 講師 多摩六都科学館 高柳雄一館長



第 2 回総会



若き血



デュオの会コンサート



ヴァイオリン演奏



廻田町囃子連



第 2 回講演会

II 沿革

2. 10年間の活動

2017年度	
2017年4月15日	第3回定期総会（会員数88名） サンパルネホールで開催しました。（来賓11名、会員29名出席） アトラクション：デュオの会ミニコンサート （給田俊哉さんのヴァイオリン共演）
2017年12月17日	忘年会 サンパルネホールで開催しました。（来賓7名、会員23名出席） アトラクション：ミュージックベル（久米川スキット） ビンゴゲーム
2018年1月20日	第3回講演会（サンパルネホールで開催、約50名参加） 演題「首都直下地震の被害想定と過去の震災に学ぶ地震予防対策」 講師 工学院大学 久田嘉章教授
2018年3月	ホームページ全面改訂 三田会会員田中康之さんにより、三田会ホームページの全面改訂が行なわれました。



第3回総会



ミニコンサート



忘年会



久米川スキット



ビンゴゲーム



第3回講演会

II 沿革

2. 10 年間の活動

2018 年度	
2018 年 4 月 21 日	<p>第 4 回定期総会（会員数 84 名）</p> <p>サンバルネホールで開催しました。（来賓 7 名、会員 29 名出席）</p> <p>給田俊哉会長、田中康之幹事長が選任されました。</p> <p>講演 講師 慶應義塾大学 山口高平教授</p> <p>演題 「最新 A I と社会への影響」</p>
2018 年 7 月	<p>入会勧誘</p> <p>東村山在住の塾員 335 名に「三田会入会のお誘い」を発信しました。</p> <p>新たに 3 名の会員を迎えることができました。</p>
2018 年 11 月 24 日	<p>日吉台地下壕見学</p> <p>会員 11 名、家族 1 名が参加して、慶應日吉キャンパスの地下にある、地下壕の見学を行ないました。</p> <p>終戦直前の海軍連合艦隊司令部のあった場所です。</p>
2018 年 12 月 23 日	<p>Xmas パーティー</p> <p>サンバルネホールで開催しました。</p> <p>（来賓 5 名、会員 26 名、家族&招待 18 名出席）</p> <p>今回から“Xmas パーティー”とし、ご家族にも参加いただきました。</p> <p>アトラクション：廻田町囃子連、ソプラノ（デュオの会上野菜摘さん）</p> <p>ビンゴゲーム</p>



第 4 回総会



講演会



日吉台地下壕



集合写真



廻田町囃子連



デュオの会

II 沿革

2. 10年間の活動

2019 年度	
2019 年 4 月 14 日	<p>第 5 回定期総会（会員数 83 名）</p> <p>サンバルネホールで開催しました。（来賓 9 名、会員 25 名出席）</p> <p>アトラクション：フラダンス（プアラレア レファウラ）</p>
2019 年 7 月 27 日	<p>バスツアー</p> <p>会員 7 名、家族 1 名でバスツアーに参加しました。</p> <p>豊洲市場、迎賓館赤坂離宮などの都内名所を回るツアーです。</p>
2019 年 11 月 24 日	<p>サントリー工場見学</p> <p>会員 8 名が参加して、府中にある「サントリー武蔵野ブルアリー」の見学を行いました。</p> <p>参加者全員、見学終了後のサントリービール試飲に満足していました。</p>
2019 年 12 月 22 日	<p>Xmas パーティー</p> <p>サンバルネホールで開催しました。</p> <p>（来賓 8 名、会員 23 名、家族&招待 15 名出席）</p> <p>アトラクション：オンデンバンドによるラテン・ボサノバ演奏 （塾 OB・OG 6 名で構成されたバンド）</p> <p>ビンゴゲーム</p>



第 5 回総会



フラダンス



赤坂離宮にて



サントリー工場見学








ビンゴゲーム



バンド演奏

II 沿革

2. 10 年間の活動

2020 年度	
新型コロナウイルスの感染拡大により、ほとんどの企画を縮小、中止しました。	
2020 年 4 月	<p>第 6 回定期総会（会員数 78 名）</p> <p>初めての対応ですが、定期総会を書面決議で開催しました。 給田俊哉会長、田中康之幹事長が再任されました。</p> <p>会則に準会員の規定を設け、会員のご家族が準会員として加入できることを定め、会員の奥様 4 名が準会員として新たに入会されました。</p>
2020 年 7 月	<p>入会勧誘</p> <p>地域三田会の無い東大和市・清瀬市在住の塾員 394 名に、「三田会入会のお誘い」を発信しました。 新たに 4 名の会員を迎えることができました。</p>
2021 年度	
2021 年 4 月 17 日	<p>第 7 回定期総会（会員数 84 名）</p> <p>サンパルネホールで開催しました。（会員 19 名出席） 懇親会は行なわず、総会のみで開催としました。</p>
2021 年 12 月 18 日	<p>Xmas パーティー</p> <p>サンパルネホールで開催しました。 （会員・準会員 23 名、家族&招待 9 名出席）</p> <p>年末になり、ようやく飲食を伴わない会合が可能になりました。 懇親会ではお茶を提供し、用意したお弁当を持ち帰りいただきました。</p> <p>アトラクション：デュオの会ミニコンサート （給田俊哉さんのヴァイオリン共演） ビンゴゲーム</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>第 7 回総会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>Xmas パーティー</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>ミニコンサート</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ビンゴゲーム</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>若き血（マスク着用）</p> </div> </div>	

II 沿革

2. 10 年間の活動

2022 年度	
2022 年 4 月 16 日	<p>第 8 回定期総会（会員数 79 名）</p> <p>サンバルネホールで開催しました。（会員 19 名出席）</p> <p>給田俊哉会長、田中康之幹事長の 1 年任期延長を承認しました。</p> <p>懇親会ではお茶を提供し、用意したお弁当を持ち帰りいただきました。</p> <p>アトラクション：マジックショー（慶應 OG マジシャン小梅さん）</p> <p>デュオの会演奏の「YouTube」鑑賞</p>
2022 年 11 月 5 日	<p>三田キャンパス見学</p> <p>会員 7 名、家族 1 名が参加し、三田キャンパスの見学を行ないました。</p> <p>塾員センター中里課長にご案内いただき、旧図書館や普段見ることのできない演説館の内部、模擬法廷教室などをご案内いただきました。</p>
2022 年 12 月 18 日	<p>Xmas パーティー</p> <p>サンバルネホールで開催しました。</p> <p>（会員・準会員 16 名、家族&招待 13 名出席）</p> <p>懇親会ではお茶を提供し、用意したお弁当を持ち帰りいただきました。</p> <p>アトラクション：マジックショー（慶應 OG マジシャン小梅さん）</p> <p>デュオの会 Xmas ミニコンサート、ビンゴゲーム</p>



第 8 回総会



三田キャンパス見学



Xmas パーティー



Xmas ミニコンサート



マジシャン小梅さん



II 沿革

2. 10 年間の活動

2023 年度	
2023 年 4 月 16 日	<p>第 9 回定期総会（会員数 71 名）</p> <p>サンパルネホールで開催しました。（会員 18 名出席）</p> <p>給田俊哉会長、田中康之幹事長を再任しました。</p> <p>懇親会は外部の飲食店（はかた商店）に場所を移して行ないました。</p>
2023 年 5 月	<p>入会勧誘</p> <p>東村山在住の塾員 313 名に「三田会入会のお誘い」を発信しました。</p> <p>新たに 4 名の会員を迎えることができました。</p>
2023 年 7 月 13 日	<p>小澤酒造見学</p> <p>7 名が参加して青梅の小澤酒造を訪問しました。</p> <p>併設の「ままごと屋」で食事、酒蔵見学、そして最後にきき酒処で銘酒「澤ノ井」をいただき満足して解散しました。</p>
2023 年 11 月 14 日	<p>バスツアー</p> <p>会員・準会員 9 名が参加してバスツアーに参加しました。</p> <p>快晴のもと、山梨の紅葉の名所を巡るツアーを楽しみました。</p>
2023 年 12 月 23 日	<p>Xmas パーティー</p> <p>サンパルネホールで開催しました。</p> <p>（会員・準会員 20 名、来賓 7 名、家族&招待 10 名出席）</p> <p>4 年ぶりに、ホールで飲食しながらパーティーが開催されました。</p> <p>アトラクション：諏訪神社西宿禰子保存会 デュオの会 Xmas ミニコンサート、ビンゴゲーム</p>



第 9 回定期総会



小澤酒造・ままごと屋



猿橋（大月市）にて



Xmas パーティー



諏訪神社西宿禰子保存会



ミニコンサート

III 情報発信

1. 会報

2014 年 10 月に東村山三田会の会報創刊号が発行されました。

以来、半年に 1 冊発行して、現在第 17 号まで発行しています。

会員への情報提供、一体感の醸成を目的として会報を発行しています。

会報は、会長挨拶、三田会行事の紹介、各同好会の活動の紹介、会員からの寄稿で構成され、ページ数は 12～16 ページです。

コロナ禍、三田会行事や同好会活動の縮小もあり、掲載記事が少なくなり発行を見送ったこともありましたが、2023 年度からは従前のような活動が再開され、会報の紙面も充実してきました。

会員の方への情報提供の重要なツールとして、今後も定期的に発行を続けて参ります。

なお、第 17 号からホームページで見ることのできる「Web 会報」も発行しています。



創刊号



第 17 号 Web 会報

2. ホームページ

2015 年 11 月

齊藤忠義さん(S44 商、現副会長)が、会の活動を会員同士で共有し一体感を持たせたいとの強い思いから東村山三田会のホームページを立ち上げました。

ソフト「ホームページビルダー19」を一から独学で習得し、公開・更新を行なってきました。

2018 年 3 月

齊藤さんが立ち上げた三田会ホームページが 2 年を経過して色々直したい点、追加したい機能などがあげられ、また齊藤さん一人で更新・メンテナンスを行なう体制で齊藤さんの負担が大きくなっていました。

そこで、複数管理体制とするため、田中康之さん(S52 経、現幹事長)が新たに「ホームページビルダー19」を習得して、プログラム・データベース管理を一新する全面改訂を行ないました。

現在、三田会の概要、開催行事や同好会活動の紹介など多くの情報を都度更新しており、会報と共に、会員相互の情報共有に大いに役立っています。



IV 同好会紹介

カラオケ同好会

世話役 齊藤忠義 (S44 商)

カラオケ同好会は三田会創立とともに作られ、当初の世話人は 39 年卒の加藤弘子さんでした。

私は声が悪く、カラオケの経験は無かったのですが、会長から率先して入会せよとお達しがあり、入会しました。

当初（2014 年）の会員数は 20 名、半数は役員でしたが、現役の会員も参加できるように毎月 1 回、土曜日 18 時から 21 時まで、東村山駅東口のシダックス（ビックエコーに変わり現在は閉店）で開催することになりました。

参加者は 10 名前後で、コース料理とアルコール等の飲料を飲みながら順番に得意な曲を歌い、楽しい時間を過ごしました。

役員は、役員会などから職業や人柄を把握できましたが、会員は同好会での雑談から相互に知るようになりました。

上手な会員が多いのですが、声が出なくても音響装置が声を調整してくれるので、うまくなったような気にさせてくれます。

当初から 3 年間位は毎回メンバーが入れ替り参加していたので、新鮮味もあり、会員相互の親睦を図ることができました。

久米川駅に近い会員も多いことから、2017 年から久米川駅近くのカラオケバンバンとビックエコーで交互に開催することにしました。

東村山稲門会から合同カラオケ会の提案があり、2016 年、2017 年の年末にビックエコーで開催いたしました。

2018 年、私が世話人になりましたが、時とともに参加者が固定化され少人数になり、2019 年から隔月の土曜日 18 時から開催することにしました。

隔月でも集まらなくなり、3 か月に 1 回としましたが、役員のみで数人ということもありました。

2021 年 1 月にコロナ感染拡大により、同好会活動が中止となりました。

2022 年 4 月には麻雀が再開されましたが、カラオケは密室で大きな声で歌うため、会として責任を持ってないので現在も中断しています。

公民館の部屋を借り、機器を持ち込み、窓を開けて開催している団体もあるようですが、インフルエンザもまん延しており、当面様子を見ることにしています。



2018 年 11 月 ビックエコーにて

IV 同好会紹介

麻雀同好会

世話役 田中康之 (S52 経)

毎月 1 回、2 卓(8 名)または 3 卓(12 名)で麻雀を楽しんでいます。

2014 年 6 月に河邊喬さんが世話役として麻雀同好会を立ち上げ、メンバー集めから活動の定着をしていただきました。

2016 年 1 月から田中が世話役を引き継いでいます。

2024 年 3 月までで活動は 85 回になります。コロナ禍は活動休止になりましたが、2022 年度からは毎月開催できています。



2024 年 1 月 12 名で対戦「園」

また、東村山稲門会との麻雀慶早戦を 2016 年から 2019 年まで毎年 1 月に 4 回開催してきました。ただ、こちらもコロナの影響もありしばらく開催できていません。

毎月の対戦会場としている雀荘は、当初は東村山「ぶらら」、次いで久米川「優」、最近では東村山「園」を利用しています。「優」・「園」は「飲まない・吸わない・賭けない」という「健康麻雀」の雀荘です。

学生時代から現役時代までずっと、たばこの煙にまみれて徹夜した昔の雀荘のイメージとは全く違っています。残念ながら若いお客さんはほとんど見かけませんが、代わりに女性のグループを多く見かけます。

今、日吉や三田の街を歩いてみると、昔たくさんあった雀荘を探すことが難しくなっています。クラブ活動と麻雀で学生時代を過ごしていた自分からすると寂しさを感じていますが、麻雀をとことん楽しむ世代としては私たちが最後なのかもしれません。

まずは対戦 100 回を目指してこれからも活動を続けていきたいと思っています。

2019 年 6 月から、会員の奥様 4 名が集まって「麻雀同好会女性部会」を立ち上げました。初心者から少し知っていますレベルの 4 名で月 1 回の麻雀を楽しんでいます。初心者のため、指導係 2 名がついて親切に指導しながらの対戦です。また、終了後の旦那さんも入った懇親会も楽しみです。

新しいメンバーは常に募集中です。

女性部会では、女性会員の方や会員のご家族の参加は大歓迎です。

上手下手、強い弱いは関係なく、月 1 回の対戦を楽しむ会ですので気軽に参加してください。

IV 同好会紹介

俳句同好会

世話役 佐藤嘉江子 (S57 文)

この原稿を書くために俳句同好会の初期からの資料を引っ張り出してきたところ、けっこうな分量があり、驚いた。そりゃそうだ、10年だもの。と言っても、俳句同好会の初回顔合わせミーティングは2014年11月9日、記念すべき第1回句会は12月6日だから、同好会としての歴史は9年だ。

すっかり忘れていたが、顔合わせミーティングの参加者は3名、第1回句会は5名で行われている。名簿上は10名いたので、いささか寂しいスタートだった。

その後、回を重ねるごとに6名、7名、8名と句会参加者が増えていき、一度も句会に出席することなく退会された方もおられたが、新たに加入して下さる方もおり、現在は9名で活動している。会員の入れ替わりはあっても、人数的にほとんど変化がないのは、世話役としてありがたいかぎりだ。

最初の顔合わせミーティングで、句会は月一回、季節ごとに吟行を行なうと話し合ったが、残念ながら吟行はかなり前に2回行なったきり。しかし句会は毎月開催されている。コロナ禍で自粛した時も、Web句会を提案して下さる方がおり、活動を続けることができた。対面での句会ができなかったのは、2020年3月から6月までの4回だけである。こうして見ると、俳句同好会の活動は毎月淡々と句会をおこなうだけ、とも言えるが、俳句を作るというのは、そもそもそういうことなのかもしれない、と気づく。

この9年間で自分の作った句を振り返ってみると、その時々出来事や心情が甦ってくる。介護生活に入ったこと、父が亡くなったこと、転職したこと、引っ越したこと、出会いや別れや趣味のことなど、どちらかといえば暗い句が多いが、それは、この9年間の私の生活や心のありようがそうだった象徴であろう。

毎月毎月、心のどこかで面倒くさいと思いつつも句作を続けてきたおかげで、こうして振り返ることができる。ありがたいことだ。こうして俳句同好会の活動を続けてこられたのも、私が俳句をやめずにこられたのも、すべて、会のみなさんのおかげである。

句会は2023年9月に100回を数えた。2024年は10周年を迎える。淡々と句会を開催するだけの地味といえば地味な活動ではあるが、ひとりでも多くの同好の士を得て、200回、300回、20周年、30周年……と活動が続いていけばいいなと願っている。



2023年9月 第100回記念句会

<お気に入りの一句>

夕燕駅舎に褪せし旅ノート	凡水	空腹といふ死因あり敗戦忌	かえる
青天にふたつ紅さす木守柿	弦六	永き日や四限ののちの大銀杏	丸女
海風て水平線へ月の道	岳徒	旧友は即かず離れず鳥渡る	蓑
駅伝のピストルに飛ぶ初雀	栗丸	会釈して春泥の道譲り合ふ	千枝子
飴色やさても懈かる夏の月	蹴平		

IV 同好会紹介

あるいて三田会東村山

世話役 鈴木 実 (S50 政)

9年間で都合 20万歩(概数) 115キロ(概数)を 歩く?

「あるいて三田会東村山」(通称:歩く会)は、2014年11月29日の第1回目の活動開始以来、今年2023年5月17日までに、合計24回(中止1回を含む)の企画を実施してきました。

「歩く会」は、東村山周辺をゆっくり巡りながら、自分たちの住む町の歴史、文化、自然を見直し、あわせて健康維持を目指そうという趣旨でスタートしました。

活動開始の第1回目は、東村山市のボランティアガイドの案内で正福寺、八国山、將軍塚、徳蔵寺などを巡りました。その後も会員の住む周辺を、その方が中心となって案内してもらおう形での東村山巡りがつづきます。

東村山巡りが一巡してからは、新春には縁起物の七福神巡り、春と秋のウォーキング日和の季節には緑が豊かな多摩地区を歩き、ときには酒蔵見学も加えながら、昼食での歓談(少量のアルコールあり)を楽しむ形での企画がつづきました。

コロナ禍で2年以上ものあいだ活動が中断してしまい、この間に社会活動が再開してからの企画の進めか方などを検討しました。2022年からは「この指とまれウォーキング」と銘打ち、西武鉄道主催の「ウォーキング&ハイキング」の企画のなかから、世話役が選んで呼びかけるという形での運営に変更しました。この形での企画に変更してからは、会員だけでなく東村山三田会のみなさんに広く呼びかけています。

東村山三田会の設立10年目にあわせ、来年は原点回帰として東村山市が「健康づくり!」の一環で作成した「ウォーキングマップ」の設定する8コースを企画に加えて実施したいと考えています。



2015年11月 多摩六都科学館



2018年10月 豊洲市場



2019年1月 雑司ヶ谷七福神



2019年6月 石川酒造



2019年11月 石神井城址



2022年11月 東郷公園

IV 同好会紹介

スケッチ同好会（東村山慶美会）

世話役 清水英男（S38 法）

東村山三田会が来春 10 周年を迎えることをメンバー一同心から喜んでいます。

当同好会も三田会が設立された 2014 年に 7 名の賛同者が参加し活動を開始しました。

同年 11 月に初顔合わせを行いました。S25 年卒から S59 年卒迄の幅広い年代の方々ですが、お互いの画歴や絵画に対する思いを披露し合い、意気投合しました。今後の活動の進め方として、高齢者も多いことから、春と秋は野外スケッチ、暑さや寒さを避けて夏と冬は屋内で人物画や写真を見てのスケッチとし、年 4 回の活動とすることにしました。



2015 年 6 月 小平ガスミュージアム

翌年 1 月に新年会を兼ね懇親会を行い、お互いの画作（油絵、水彩画、色鉛筆等それぞれですが、そのデッサンやスケッチ帳、写真等）を持ち寄り、時間を忘れるほど盛り上がりました。

最初の野外スケッチは 6 月に小平ガスミュージアムで、以降主として西武線沿線近郊で、小金井公園江戸東京たてももの園、殿ヶ谷公園、航空公園、武蔵関公園、小平ふるさと村、正福寺、北山公園等々を巡りました。室内でのスケッチは全て中央公民館で、知り合いの女性にモデルをお願いしての人物画や各自お気に入りの風景写真を持ち寄り行いました。

何時も描いている時は夢中で取り組んでいるので会話も少ないため、野外や室内に拘わらずその後は懇親会を実施し、その時のスケッチを披露し合いますが、画歴の長い方からの若干のアドバイスはあるものの、全てそれぞれ褒め合って美味しいお酒を一寸飲むという居心地の良い毎回です。

そういう活動は 2020 年 2 月まで計 22 回実施され、残念ながらコロナ禍で同年 5 月に予定していた野外スケッチを中止せざるを得ず今日まで活動休止状態です。

活動中は殆ど毎回全員参加、野外スケッチが雨天中止は 1 回のみというのが自慢でした。メンバーも途中で他所へ移転されて三田会を退会された方がおり、以降は 6 人で続けてきましたが、活動休止期間中に残念ながら 1 名の方が逝去され現在は 5 人となってしまいました。

本年 5 月頃から活動再開を模索してきましたが、何といたっても約 3 年半の活動休止期間のブランクは大きく、若手 1 名以外はかなり高齢の方々で外出が難しい方もおられ、会として一緒に画作活動は無理なので、描くことは各自に委ねるとして集まれるときは集まって会の存続は続けたいというのがメンバーの共通した思いです。

今後何人か入会希望される方をお待ちして（活動休止中に 1 名おられましたでしたが、活動をしていないのでお誘いも出来ませんでした）活動再開するか、近隣の三田会の同様の同好会とコラボさせて頂くことも検討したいと思っております。

IV 同好会紹介

ゴルフ同好会

世話役 豊本節雄 (S53 商)

東村山三田会ゴルフ同好会の活動状況

この同好会の特徴は、一言でいえば、“気楽な集まり”ということです。頻繁に活動している訳でもなく、会員になったからといって負担になることはありません。基本、春と秋、年 2 回のゴルフコンペを開催しますので、日程が合えば、または気が向いたら参加するだけです。自然に触れ、久しぶりに会う会員とプレーや会話を楽しむ、時にはゴルフを離れて親睦会を行う、そんな同好会なのです。

東村山三田会設立の翌年、2015 年 10 月に第 1 回コンペを開催し、コロナ禍の 3 年間は中断を余儀なくされましたが、2022 年 11 月に再開。今春、13 回目のコンペを行う予定です。

会員数は 15 名で、2 組から 3 組でのコンペになっています。競技方法として、新ペリア方式を採用しており、多くの方に優勝チャンスが回ってくるようになっています。実際に、過去 12 回の優勝者は 10 名（複数優勝 2 名）で、参加者の顔ぶれが大きく変わらない中、よくばらけています。一方で、ブービーやブービーメーカーになったことのある優勝経験者も多いです。

私は、この同好会コンペには、勤めていた会社のコンペにはない“こち良さ”を感じています。お互いのことを深く知らずとも、慶応で学んだという一つの絆で結ばれた“安心感と信頼感”がベースにあり、ほどほどの距離感でリラックスしてゴルフを楽しめるのです。また、地域情報を含め、様々なことを教えてもらえる場でもあります。

今、会員を増やすことが課題です。年齢・性別、そしてゴルフの腕前は全く問いません。コンペのご案内を差し上げますので、ご都合がつけばご参加いただければ結構です。

ゴルフ好きの方、ゴルフを始めようとされている方、あるいは、今のお仕事だけでなく住んでいる地域でのつながりを深めたい方、この親睦ゴルフを通じて、楽しいひと時を過ごし、人的ネットワークを広げていきましょう。お待ちしております。



2015 年 10 月 第 1 回「高根 CC」



2023 年 11 月 第 12 回「高麗川 CC」

IV 同好会紹介

ボウリング同好会

世話役 給田俊哉 (S43 法)、朝木直子 (H4 文)

創立以来毎月 1 回、通常月曜日に久米川ボウルで実施。

通常 11 時半にボウリング場の近場でゲーム前のランチをゆっくり楽しんだ後、久米川ボウルで 2 ゲームをやっている。

参加者みな自前の愛用靴を持参。借りることも勿論簡単にできるが毎月ゲームを楽しむのであれば自分の靴の方がよいし、安くなる。

同好会所属メンバーは 16 名の登録があるものの、なかなか沢山の集合は難しく、通常 5～6 名で楽しんでいる。当会会員ではないが、西東京三田会の高橋理事がほぼ毎回参加してくれている。

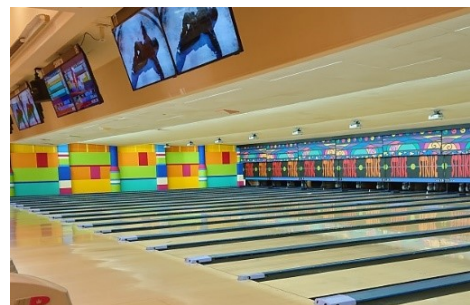
これまでの最高記録は、2017 年 9 月に田中 康之君の出した 193 点が今でも本人を含めて破られていないと思う。

参加者のレベルはざっと 80 点から 160 点程度。やれば若い頃もバッチリ思い出されて結構楽しいゲーム！

ボウリングは江戸時代 (1861 年) に長崎の出島にボウリング場ができて日本に入ってきたとのこと。1970 年代中山律子さん、須田開世子さんらの活躍で大ブームになり、三田会会員もほとんどの方がボウリングを楽しんだことがあるのでは。

若い頃を思い出して大いに参加されたし！

歓迎します！！



IV 同好会紹介

食べ歩くかい？

世話役 櫻井正廣 (S46 経)

「食べ歩くかい？」は、誰でもが気楽に参加できる会として発足、記念すべき第 1 回は 18 名の参加を得て、当会の会員である田崎氏がマスターの天婦羅「天喜」で開催されました。

その後、各種のグルメサイトで高評価を得ている蕎麦懐石の「土家」、隠れ家的一軒家で姉妹が腕を振るう家庭懐石の「三澤」、竹林や檜、クヌギ等が群生し武蔵野の面影が残る 600 坪の庭に、古民家の解体から出た古材を使った趣のある建物の「草門去来荘」等で開催しました。

コロナ騒動により約 3 年半は活動中止を余儀なくされましたが、令和 5 年 7 月、以前訪ねたことがあり、もう一度とのリクエストが多かった八国山丘陵の西端に位置する正に隠れ家レストラン「森の家」で、12 名参加のもと再開しました。4 年前に開いた時には、コースディナーの後、テラスにて、ワイングラスを片手に西武園の花火を 30 分弱、堪能できたのですが、西武園改装後の現在は、外から見える花火は 5 分程度となってしまったことが残念でした。

この時の様子は、HP 会報で、動画を含め掲載されておりますので、機会がありましたら、是非見て下さい。前回、趣味で始めた料理を自宅で提供する仕事を始めた奥様が慶応の出身と分かりましたが、今回は応援でサブしてくれたご主人も実は慶応の出身者であることが分かり、ご縁を感じた次第です。

お店選びに当たっては、参加された皆さんがご家族で再訪したい、友達に紹介したいと思うような、個性ある落ち着いた大人の雰囲気のお店ということに加え、会員の年齢構成に鑑み、椅子席があること等を考慮しています。ただ、市内には残念ながら、これらの条件を満たした上で、15 人程度が入れるお店はかなり少なく、店選びに苦慮している昨今です。

毎回、それぞれ個性あるレストランでの美味しい料理と好みのお酒、まるで 30 年来の仲間達の会合かと思われる様に会話が弾み、時の経つのも忘れ、賑やかな楽しい時間を過ごしています。また、皆さん、節度を持って心地よくお酒を楽しんでおられ、さすが、三田会の集まりと感じています。



2016 年 2 月 第 1 回食べ歩くかい？「天喜」



2023 年 7 月 活動再開「森の家」

V 会員からの寄稿

松田 博 (S39 文) <初代会長>

東村山三田会設立 10 周年を祝して

この度は、設立 10 周年の記念すべき年を迎えた事に心からお慶びを申し上げます。

時間の経つのは早いものだ、と普段の日常的な会話の中で交わされますが、設立当時から見ると、東村山三田会がいつの間にか 10 年経ったのだ、と信じられない心境であります。まるで昨日の様に、思い出しています。それに加え、設立を思い立った当時、東村山市在住の慶応義塾大学 OB・OG の方々に賛同とご協力を頂きお礼と感謝を申し上げます。



<設立に至る経緯>

- ① 2011 年 9 月 近隣地域三田会に入会している私の大学同期の友人知人等から、東村山三田会設立に対する強い要望等有り、あまり煩いのでその気になり、10 月頃に東村山市内在住塾員で当時の都議会議員と対話をする、
また、東村山市議会議員数人と相談し具体策の検討を開始
- ② 2012 年 6・8 月 BRB (塾員限定の交流クラブ) 会報に、東村山市在住塾員の安否確認の記事を掲載するも反応がなかった
- ③ 2012 年 9 月 慶応義塾塾員センター訪問、設立に関するアドバイスを受ける
所沢三田会・西東京三田会等を紹介され、各会長と接触、新規設立に関する情報を入手
この間、東村山稲門会を始め、他地区の三田会の総会・イベント等に招待され参加
- ④ 2012 年 10 月 東村山稲門会小亀会長から稲門会会員の義理の弟の存在を知らされ接触
- ⑤ 2013 年 1 月 塾員センターに東村山市内在住の OB・OG 名簿の借用を申請、入手
- ⑥ 2013 年 4 月 名簿に基づき役員 10 人を選定し、設立に向けて討議
- ⑦ 2013 年 8 月 東村山市在住塾員全員に、東村山三田会設立の案内を発信
- ⑧ 2013 年 11 月 4 日 サンプルネホールにて「東村山三田会設立準備会」を開催
- ⑨ 2014 年 4 月 19 日 サンプルネホールにて「東村山三田会設立総会」を開催

設立に至るまでの経緯については、大分割愛していますが、当時賛同を頂いた塾員同窓生の皆さんには、公私共多忙にも拘わらずご協力いただき、感謝に堪えない次第です。

そこには、母校への愛校精神が根強くあり、少しでも同窓生としての絆を深めながら、同窓生同士でなければ語り合えない、深い communication を図りたいという意識が根強く横たわっている事を感じました。母校を愛し母校を育てる精神、それは後輩達への心強い message となるのではないかと考えております。東村山三田会はその礎でもあります。こうした考えをも意識に入れて三田会結成に邁進した事を昨日の様に覚えています。

年が経つにつれて、後輩たちの数も多くなってきます。私達は、福沢諭吉先生の建学精神を受け継いだ一人として、世間の人達に恥じる事の無い、むしろ高貴なプライドを持つ者として、世間の人々の先頭に立って、明るい世の中の創生に貢献しなければなりません。それはサークルであり、地域においてであり、人々の集う場で発揮する事です。頑張りましょう。

会の継続運用に関しては、役員の方のご苦勞があつてこそ次第に充実した会になってきます。設立者の一員として、又会員の一員として 10 周年を迎えられた事にお祝い申し上げますと共に、今後、20 周年に向かって、東村山三田会がより一層の発展をする事をご祈念申し上げます。

V 会員からの寄稿

小島安雄 (S43 経)

私と六大学野球

野球が好きである。小さい頃から自分でやるのも見るのも、とにかく野球が好きであった。野球との縁は、今なお切れない。

第一希望の大学入試に失敗してモヤモヤした気持ちを抱えながら慶応に入学したが、神宮球場に行ってからこの大学で4年間を過ごす心が固まったという話はよく聞くが、私もそうだった。春のシーズン・慶早戦を通じて、私は慶応シンパに変身した。野球の力はあなどれない。

入学した昭和39年春は惜しくも早稲田に続く2位だったが、秋には剛速球の渡辺投手を擁して優勝。銀座サッポロライオンでビールを飲んだ後、皆でスクラムを組んで銀座の裏通りを走り回った。

その後慶応野球は長らく低迷し、昭和41年春には東大にも敗れて初めての最下位。屈辱を味わったが、最終年の昭和42年春にはエース藤原投手で再び優勝できた。入学の年と最終年に、優勝を2回経験できたのは幸いであった。

当時慶早戦学生席のチケットは奪い合いで、チケットが入手できると私は始発電車に乗って勇んで球場に出かけた。新聞には必ず、神宮球場での徹夜組が慶応側何人、早稲田側何人などと報道された。たとえ優勝が絡んでいなくても、必ず両校に徹夜組がいた。

私は今でも春秋の野球シーズンになるとソワソワして、慶早戦を中心にバックネット裏席に通う。応援スタイルもすっかり変わってしまった。学生席の最上部に慶応側はミッキーマウス、早稲田側はフクちゃんの大きな看板が飾られていたが、今はない。応援指導も男子学生の出番は少なく、チアガールが主役である。選手たちは、私にとってはほぼ孫世代。選手たちの姿は可愛くもあり、そして頼もしい。今夏甲子園で107年ぶりの優勝を果たした塾高生が、大学でも活躍するのを楽しみにしている。



1964年秋の慶早戦



当時50円の学生券

V 会員からの寄稿

櫻井正廣 (S46 経) < 国宝正福寺千躰地蔵堂保存会会長、地蔵祭り実行委員会会長 >

国宝 正福寺千躰地蔵堂 (金剛山正福寺境内：野口町 4 丁目)

東京都唯一の木造建造物の国宝(1929年指定)である正福寺千躰地蔵堂(1407年建立)は、鎌倉円覚寺舍利殿と同じ禅宗様建築の建物で、堂内に高さ 20 cm 前後の多数の木造小仏像が祀られていることから、千躰地蔵堂と称されています。上層屋根は禅宗様式の特徴である隅反りが強い入母屋造りの柿葺きで、下層屋根は板葺き、垂木が放射状に配列された扇垂木となっています。



この地蔵堂の前身は、鎌倉幕府 8 代執権北条時宗が鷹狩りのおり、当地で命が危ぶまれる病に見舞われ苦しんでいた時、夢うつつの中に、丸薬を持ったお地蔵様が現れ、授けられた丸薬を服すると、夢から覚めると共に病も平癒したことから、近くに祀られていた延命地蔵菩薩の靈験と感謝し、寄進された(1278年)とされています。



現存する堂内の小さなお地蔵様(1972年：東村山市の有形民俗文化財指定)は 900 体弱で、胸前で合掌、拱手、拱手して鉢を持つもの等がありますが、像の形状や線状に刻まれた衣文様は基本的に共通しています。

これらは、主に江戸時代、悩み多き村人が既存の 1 体を借りていき、祈願成就のおりには、新たに 1 体を添えて、謝恩奉納すること(借り仏信仰)により増えて来たものと推定されており、夫々のお地蔵様は独自の物語を持っている訳です。

また、これらの小地蔵は野口村だけでなく、現在の名称で言えば、東大和市、武蔵村山市、所沢市、清瀬市、小平市、国分寺市、小金井市、立川市、国立市など、幅広い地域から奉納されており、18 世紀前半に正福寺地蔵尊が近郊近在の信仰心を捉えていたことが伺えます。

近年、地域活性化プロジェクトの一環として、地元商店会主催の地蔵まつりが毎年 11 月 3 日に開催されており、市内の就労支援福祉法人に委託、作成頂いた小地蔵を入魂のうえ、販売しており、購入された方は願い書いた紙を地蔵様の体内に埋め込み、1 年後に、それをご返納頂いております。お納め頂いた小地蔵は、地蔵堂の外側の棚に、整然と並べられています。

※地蔵堂の堂内開放日は、6 月の第 2 日曜日、8 月 8 日、11 月 3 日です。

V 会員からの寄稿

中西良行 (S49 政)

「阿保親王墓」(あぼしんのうのはか)

わたしは、若年の頃から「隠者」に憧れていた。隠者とは例えば「方丈記」の鴨長明、「徒然草」の吉田兼好、その他中国の「竹林七賢」などである。

また、夏目漱石の造語である「高等遊民」の境地や、その他「自由人」のそれというものに心惹かれた。

かくありたいと思ったが、それは非現実的願望というもので、大学は国文科などではなく、法学部政治学科を選択した。(創価大学に移られた民法のN教授は、政治学は「重役学」などと揶揄されておられたが)

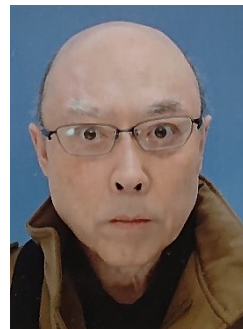
卒業後は某金融機関に入社した。最初の任地は大阪の支店で、預金係に配属されたが、仕事は厳しいものだった。日々、大変なストレスを覚え、結局その最大の解消策は、やはり「お酒」だった。大阪で飲んで芦屋まで帰ると 10 時過ぎになり、最終のバスは 10 時半発で、乗り損なうことがあり、タクシー乗り場は長蛇の列で、隣の西宮市夙川(しゅくがわ)にある独身寮まで歩くことが多かった。25 分くらいかかるのだが、高級住宅地であり、豪邸の間を歩くのは気分の悪いものでは無かった。

駅から寮へのコースは幾つもあり、そのうちの一つに静まりかえった正体不明の、暗黒の空間の脇を通るものがあつた。寮に帰って地図を調べると「阿保親王墓」とある。聞いたことのない名前だったので、後日人名事典を引くと、「在原業平の父」、薬子の変の「平城上皇の子」、「桓武天皇の孫」とのことである。

芦屋に御墓というと能楽の話しのようにどこか気に入る、それ以来、夜、徒歩で寮に帰る場合、必ずその御墓に立ち寄った。頭を垂れて、無念無想を心がけると、心が和んだ。その後、部署は庶務係、貸付係と異動になったが、飲酒と御墓参りは続けていた。

だが、5 年目で東京の本店に転勤になった。やはり、仕事は残業も多く厳しいものだったが、東京には、もう心を和ませてくれる「阿保親王墓」のような霊的領域は無かった。

私には、「お酒」が残されただけだった。



「阿保親王墓」<芦屋市翠ヶ丘町>

V 会員からの寄稿

田中康之 (S52 経)

慶應ギターアンサンブル (KGE)

大学 4 年間、「慶應ギターアンサンブル」という音楽のクラブでギターを弾いていました。

兄の影響で少しギターをやっていたので、大学ではギターのクラブに入ろうと思いましたが、クラシックは興味が無く、クラシック以外の演奏を行なっているクラブを選びました。

「KGE」はラテン・ボサノヴァの演奏を中心としたクラブで、部員は 40 名ほど、ギター以外にパーカッション、ピアノ、キーボード、ベース（ウッド、エレキ）、フルート、クラリネット、ヴィブラフォン、マリンバ、ハープなどの色々な楽器を使って演奏を行ないます。

2019 年の当三田会の Xmas パーティーで演奏してもらった慶應 OB のバンドは、今も毎月原宿のライブハウスで演奏活動をしている「KGE」OB・OG のメンバーです。

クラブには音楽センスのある部員が各学年に数名いて、レコードを聴きながら耳コピーですぐにギターで弾けてしまい、このコードは 9th だ 11th などと話す、私からは考えられないことをやっていました。私はその他大勢のグループでなんとか練習についていった組です。

活動は年 2 回の演奏会と、それに向けて週 2~3 回の練習、夏・秋の合宿を行ないます。11 月の三田祭開催期間は毎年 12 月の定期演奏会に向けての合宿なので、在学中に三田祭に行ったことは一度も無く、卒業後始めて三田祭を見に行きました。

私は、1 年、2 年は結構真面目に授業に出ていましたが、3 年で三田へ通う頃には、昼にギターケースを持って学食のたまり場へ行き、メンバーを集めて夕方まで三田で麻雀、夕方からクラブの練習、9 時過ぎに練習が終わってから今度は 4 年半下宿していた日吉に徹夜ができる雀荘がありそこで徹マン、これが練習のある日のほぼお決まりのコースでした。

ボサノヴァギターはコード進行が難しく、今では全く弾くことはできませんが、ボサノヴァの響きは好きで今でもよく聴いています。

友と音楽の趣味をもらった 4 年間、とても大事な時間でした。

上の写真は、4 年生の時の合宿での同期の写真です。後列中央が私で、当然ですがみんな若いです。もう 1 枚は文京公会堂での 4 年生最後の定期演奏会の写真です。

同期の仲間とは年に何回か集まっていますが、全員 70 歳近くのおじいちゃん、おばあちゃんなのに、何故か学生時代の若いときのイメージでワイワイと楽しんでいます。



1976 年 11 月 合宿での同期の写真



1976 年 12 月 4 年生最後の定期演奏会

V 会員からの寄稿

河崎賢一 (S52 工)

大学に入学した時代と私の同好会活動

私は昭和 48 年(1973 年)4 月に慶應義塾大学工学部に入学しましたが、日吉キャンパスがロックアウトされたため入学式がありませんでした。

1972 年の浅間山荘事件、1973 年 1 月のニクソン大統領「ベトナム戦争の終結」宣言（サイゴン陥落は 1975 年）などを背景に、日本国内ではベ平連活動は続いていたものの、全共闘・全国学園紛争の時代は過ぎていたにも関わらず、慶應義塾大学では 1972 年の「第二次学費改定紛争」の影響で、1973 年度の入学式は中止となりました。

映画「イージーライダー」「バニシングポイント」「ウッドストック」「いちご白書」等の影響もあり、ロック／ヒッピーが注目された“Love & Peace”の時代でした。この中で、私は KEIO Rhythm & Blues Club(略称 KEIO R&BC)というメンバー 40 名ほどの軽音楽系同好会に入りました。

軽音楽系同好会には、同年次の歌手 竹内まりやさんが所属していたソフトな曲志向の Real McCOYS がありましたが、R&BC はこてこてのハード（ロック）中心でした。

日吉キャンパス校舎群とは中庭を挟んだ、現在の塾生会館辺りにあった古い講堂的ホールのステージで普段は練習を行い、授業中にはお構いなく大音量アンプ／スピーカで騒音を撒き散らしていたものです。

初夏に数百人を集めたダンスパーティを(旧)産経ホールで主催し、その収益で中古のワンボックスカーを購入し、志賀高原夏合宿での楽器・アンプ運搬に利用しました。三田祭では、階段大教室で同好会内の数バンドが順にライブ演奏をしました。私は Deep Purple のコピーバンドメンバーとしてシャウト唱法のボーカル担当でした。添付写真は三田祭終了後の R&BC メンバー集合写真です。

同好会メンバーのファッションはその時代らしくベルボトム／ロン毛／ロンドンブーツで、メンバーにはサザンオールスターズがデビューする前に湘南地区で人気があった“安全バンド”の一員が居たり、「私は魔女」と公言する女性が居たり、自称「あほの坂田」の関西出身の芸人風メンバーが居たりと、中々個性的な方々が集まった同好会でもありました。

私は卒業以降ハードロックバンド活動には参加していませんが、ライブ・クラブ、ライブ・カフェ・バー、ジャズ・バー、シャンソニエに通い、多くのプロ歌手/ピアニスト/バンドマンと知己を得て今に至っています。

大学入学の年にベトナム戦争が収束に向かいましたが、近年またウクライナ、パレスチナでの戦争が始まり、続いています。1960 年代の若者の反戦運動／カウンターカルチャーの標語“Love & Peace”は現代でも生かしていくべきでしょう。



V 会員からの寄稿

坂本正典 (S54 商)

水耕栽培について

1) **出会い** 昭和 60 年のつくば博で、1 本のトマトが 1 万個以上の実をつけている映像を見て、興味を持ちましたが仕事の都合上断念しました。その後、協和発酵が名古屋で試験農場を公開しており見学に行きましたが、その時は見学だけで具体的な行動には結びつきませんでした。省エネでグリーンカーテンが流行り始め、特にベランダでのゴーヤ栽培を推奨しており、プランターでゴーヤ栽培を始めましたが、土の後処理が大変で一度だけでやめてしまいました。水耕栽培を始めて 12 年、色々なものの栽培をしてきました。

2) **装置** 基本原理は『流れる水は腐らない』です。循環式装置であれば、溶液の追加補充のみで栽培は可能です。趣味に金をかけないことがモットーなので、近くの八百屋でネギの入った発泡スチロールを無料でもらい、それを上下 2 段に重ね、下側の水中ポンプで水を上側に送り一定の水位を超えると下側に流れ出るように作りました。発泡スチロールは紫外線が通過するので、外側にアルミホイルを貼り付け遮光しました。温度管理用の水温計は 100 均で購入して、1 セット 3000 円ぐらいで上がりました。現在は、段差を利用した上下六連連結の大型装置になっています。

3) **利点・欠点** 栽培終了後の後処理が非常に簡単で、ただ水を捨てるだけで終わり再開は容器の洗浄と溶液準備のみです。とても成長が速いので、プランターならベランダにゴーヤを 5~6 本は植えますが、水耕栽培なら 2 本で可能です。水耕栽培は植物が根を伸ばす時、物理的な障害がゼロなので根がスペースさえあれば限りなく広がっていくことができるので、上部を大きく成長させることができます。ゴーヤ一株で約 300 本、トマト 200 個、きゅうり 150 本の収穫が見込めます。欠点として、成長が速いのでゴーヤ特有の苦みが少なく、トマトやきゅうりも淡泊になります。

4) **栽培管理** この原理を応用したものが野菜工場ですが、温度管理のための設備投資が必要で経営的には難しいみたいです。初期段階では、水耕栽培用の液肥を市販購入していましたが、割高なので薬品を購入して、濃度 500 倍の溶液を自作しました。市販溶液購入に比べると約 1/50 で上がります。栽培中に液肥の濃度割合が変わるので、初年度は EC 値(電気伝導率)と pH (水素イオン指数)を注意深く計測していましたが、おおよその勘所がつかめたので、次年度からは特に測りませんでした。一番の難点は、夏場の温度管理です。ベランダが南西向きなので、夏場の水温上昇を防ぐために、発泡スチロールで二重に太陽光を遮蔽しました。

今年は[永田農法 10 か条] 野菜栽培、ドローンフィッシング、燻製器の自作にチャレンジしようと考えています。



V 会員からの寄稿

青木潤一（S59 経）

慶應義塾志木高校 卒業 40 周年記念卒業式招待

私の卒業した慶應志木高校は、卒業後 40 年の時に、現役生の卒業式に招待されるというものがあります。大学も 25 周年と 50 周年で招待されますよね。私が卒業したのは、1980 年ですから、本来は 2020 年に招待されるはずでしたが、コロナの関係で 3 年遅れの 2023 年 3 月 24 日となりました。当日は、同期が 40 名以上集まり、旧交を温めることが出来ました。

ひとつ下の卒業生も招待されていましたが、そちらは 20 名程度でした。これが普通のように、私たちの同期は仲がいいとの評判です。

40 年も経つと学校の様子も様変わりするものですが、かなりの部分が当時のまま残っており、非常に懐かしく思いました。ほとんどの者が慶應大学に進学できるということで、普通の高校とは違い、受験に必要な勉強はしない。その伝統は今も生きているようです。私も経済学部に進んだものの、外部受験していたら全く歯が立たなかったでしょう。

今年の甲子園は、兄弟校の塾高が優勝しました。私の同期も何人か甲子園に応援に駆け付けたようです。母校ではありませんが、嬉しかったですね。

志木高は、東村山からも近いです。非常に素晴らしい学校ですので、慶應義塾に来たいという方がお近くにいらっしゃったら、是非お勧めください。

高校卒業後、43 年のオジサンの写真を添付します。ご覧ください。



令和4年度 卒業後40年招待 第30期生 慶應義塾志木高等学校 2023年3月24日



慶應志木高校（志木校ホームページから）

V 会員からの寄稿

朝木直子 (H4 文)

慶應ピアノクラブ

私が大学時代を追想すると、まず脳裏によみがえるのは、「慶應ピアノクラブ」というクラシックオタク学生たちのサークルです。

私は、子どもの頃からクラシックピアノを習っていましたが、中学生以降、ピアノは放ったらかしで、ロック系の音楽に聴き惚れ、「外タレ」のライブに通いつめて、クラシック音楽には全く無関心の生活をしていました。

ところが、私が高校生だった1985年のショパン国際ピアノコンクールを19歳で優勝したピアニスト、スタニスラフ・ブーニンが、日本で大ブームとなったことを機にすっかりクラシック音楽に魅了され、再びピアノの練習に明け暮れ、「クラシック音楽オタク」となったのでした。

そのような経緯で、大学時代は、この「慶應ピアノクラブ」という、ピアノ愛好家サークルで、年に2回開催される演奏会に参加し、同じ趣味を持つ友人たちと、充実した楽しい時間を過ごした学生時代でした。学生時代というのは、時間がいくらでもある黄金の時代ですね。

けれど、そんな大好きだったピアノも、社会人となると、練習時間もとれず、精神的余裕もなくなり、父を拝み倒して買ってもらったグランドピアノも手放して、気が付いたら30年もの間、ピアノに触ることなく過ごしていたのでした。

そんな中、10年前に東村山三田会にお誘い頂き、「デュオの会」への後援や、皆様との歓談の中、私もどこかで学生時代を思い出したのか、5年前から再びピアノを始めました。

社会人になってから最初の発表会には、「慶應ピアノクラブ」の先輩がかけつけてくれて、そしてそれを機に、ピアノクラブのOB達が集まって開催している定期演奏会にも参加することになりました。

現在再び、一番楽しかった学生時代の仲間と再びクラシック音楽の世界を探索しています。

余談ですが、先日、57歳となったスタニスラフ・ブーニンの演奏会に出かけました。華々しくデビューし、その派手な演奏に世界中が沸いた天才ピアニストは、長い時間の中でいろいろなことが彼の身に起こり、静かに語りかける演奏をするピアニストになっていました。

時の流れを感じました。

時代が変わっても、いつまでも変わらない「音楽」と「友情」は、私の人生の宝だと思い、そして、三田会の皆様とのご縁も大切に育てていきたいと思っております。

先の見えない時代となってまいりましたが、皆で助け合い、幸せを分かち合っていける会として、末永く続いていくことを願っております。



V 会員からの寄稿

特別寄稿 デュオの会 上野亜依さん

ご支援に感謝いたします

この度は、発足 10 周年を迎える東村山三田会に、謹んでお祝いの言葉を申し上げます。

原稿のお話をいただき、あらためまして、過去のチラシなどを保存してあるファイルを見ながら東村山三田会のご協賛に至るまでの軌跡を振り返ってみました。

初めてデュオの会がステップを踏み出した頃、演奏以外のことを考えてこなかった私たちにとって、集客や運営は非常にむずかしく、そういったことに頭を悩ませることがしばしばでした。

しかし、演奏に対する情熱と共に、集客や運営にも懸命に向き合いつづけ、2016 年からは東村山三田会の協賛を得ることで、その努力が更なる成果を結ぶこととなり、演奏会は観客の期待に応えることができ、盛況なものとなりました。

ご支援いただいたことで、精神的にもホッとできて、演奏に集中できる環境が整い、演奏以外の悩みが軽減されたことが大きな要因であることは間違いありません。

私を含め、出演者の妊娠、出産など生活面での大きな変化もあるなかで演奏活動を続けて来られたのも、子供の誕生を心から喜んでお祝いしてくださった東村山三田会のみなさまのご理解とご協力があってこそであり、そのおかげで出演者たちは新たな局面においても、演奏に向けて前進できました。

暖かな眼差しで見守ってくださる東村山三田会のみなさまとの絆があったからこそ、デュオの会は今日の姿に至ります。

これからも変化を恐れず、共に歩いていく中で新たな魅力を発見し、感動を届け続けていけるよう、しなやかに演奏を続けていきたいと思えます。

感謝の意を込めて、今までのご支援に心から御礼申し上げます。



VI 資 料

1. 会員名簿

2024 年 4 月 1 日現在（72 名）

<ホームページ掲載時、会員名簿は割愛しています。>

VI 資 料

2. 東村山三田会会則

第1条 本会は、東村山三田会と称する。

第2条 本会は、会員相互の親睦・交流を深めるとともに、地域社会の発展に貢献することを目的とする。

第3条 本会は、いかなる理由があろうとも、特定の個人・法人または団体の利益を目的とした事業に關与することはしない。

2. 本会は、本会および会員は、これを特定の政党・政治および宗教のために利用してはならない。

第4条 本会は、東村山市内に事務所を置く。

第5条 本会は、慶應連合三田会の会員として登録し、その事業に協力するものとする。

第6条 本会の会員は、次に定める者とする。

東村山市市内又はその近隣に在住又は在勤する慶應義塾塾員・本会役員会で承認された慶應義塾卒業生及び本会役員会で承認された旧共立薬科大学卒業生とする。

第7条 本会に、次の役員を置く。

会長 1名 副会長 3名以内

幹事長 1名 会計 1名

役員 5名以内

2. 本会に、監査員1名を置く。

3. 役員と監査員は兼任することはできない。

第8条 役員および監査員（以下「役員等」という）は、総会で選任する。

但し、任期中の役員等の退任により重大な支障が生じる場合、役員会の決議により役員等の選任ができる。この場合、任期は当該役員等の任期迄とし、選任後最初に開催される総会でその旨報告しなければならない。

2. 役員等の候補者の自薦或いは他薦については、役員等の選任が行われる年度の総会月の6 か月前迄に幹事長にその旨を申し出なければならない。

第9条 役員等の任期は2年間とする。但し、再任はさまたげない。

なお、総会の承認を得ることで、その任期を延長することができる。

第10条 会長は、本会を代表し、会務を統括する。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

3. 幹事長は、会務の執行を推進する。

4. 会計は、本会の会計を取り扱う。

5. 役員は、役員会の決定に基づき、会務を執行する。

6. 監査員は、本会の事業および会計を監査する。

第11条 役員会は前第7条の役員等をもって構成する。

2. 役員会は会長が必要と認めたときに開催する。

3. 役員会の審議にあたっては、当会則ならびに総会の決議にもとづき、会長の責任のもと会務の執行をする。

VI 資 料

2. 東村山三田会会則

第12条 総会は前第6条の会員をもって構成する。

2. 総会は、原則として年1回、会長が召集し開催する。但し、緊急を要する議題等が生じたときは、この限りではない。

3. 総会は、会則の改廃、役員を選任、予算・決算、本会の事業その他の重要事項について決議する。

第13条 総会および役員会の決議は、出席者の過半数をもって決する。

2. 可否が同数となったときは、議長の決するところとする。

第14条 本会の運営に関する費用は、会費、寄付金その他の収入を持って充てる。

第15条 本会の会費は、年額4,000円とする。

2. 納入のあった会費は、いかなる事由があろうとも返還には応じない。

3. 10月1日以降に入会した場合の初年度会費は半額とする。

4. 夫婦で会員となっている場合、配偶者の会費は半額とする。

第16条 前第6条の会員の基準に該当しない者を、本会準会員として入会を認める場合がある。

2. 準会員は、本会会員の推薦と役員会の承認により本会への入会を認める。

3. 準会員の会費は、年額2,000円とする。

4. 準会員は、役員就任および総会の決議に加わることはできない。

第17条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。但し、本会発足の初年度は、平成26年4月19日から、とする。

第18条 病気、転勤、その他やむを得ない事情がある場合には本人の届け出により休会することが出来る。

2. 休会を希望する会員はその旨を幹事長宛に届けなければならない。

3. 休会中の本会の会費は、年額1,000円とする。

第19条 会員および準会員の資格喪失事由は下記の通りとする。

死去、若しくは、会長に退会を申し出た場合

2. 本会の名誉を毀損、若しくは本会の主旨に反する行動をとった場合

3. 年会費を2年連続未納し、継続の意思が見られない場合

附則 この会則は、平成26年4月19日より施行する。

(一部改定) 平成27年4月18日、平成28年4月23日、平成29年4月15日

平成30年4月21日、2019年4月17日、2020年5月1日、2023年4月16日

VI 資 料

3. 役員履歴

年 度	会 長	副会長	幹事長	会 計	監 査	役 員
2014 年度	松田 博	加藤弘子	河邊 喬	斉藤忠義 佐藤嘉江子	大木耐三 櫻井正廣	他 13 名
2015 年度	松田 博	澤田和朋 加藤弘子 給田俊哉	河邊 喬	斉藤忠義	大木耐三 櫻井正廣	他 13 名
2016 年度	松田 博	加藤弘子 給田俊哉	斉藤忠義	田中康之	櫻井正廣	他 4 名
2017 年度	松田 博	加藤弘子 給田俊哉	斉藤忠義	田中康之	櫻井正廣	他 4 名
2018 年度	給田俊哉	熊谷正美 斉藤忠義	田中康之	相川孝訓	櫻井正廣	他 4 名
2019 年度	給田俊哉	熊谷正美 斉藤忠義	田中康之	相川孝訓	櫻井正廣	他 4 名
2020 年度	給田俊哉	熊谷正美 斉藤忠義	田中康之	相川孝訓	櫻井正廣	他 5 名
2021 年度	給田俊哉	熊谷正美 斉藤忠義	田中康之	相川孝訓	櫻井正廣	他 3 名
2022 年度	給田俊哉	熊谷正美 斉藤忠義	田中康之	相川孝訓	櫻井正廣	他 3 名
2023 年度	給田俊哉	熊谷正美 斉藤忠義	田中康之	相川孝訓	櫻井正廣	他 4 名

4. 東村山市の塾員・三田会会員の分析

2024 年 4 月 1 日現在

町 名	塾 員	内会員	比率	町 名	塾 員	内会員	比率
秋津町	45 名	3 名	6.7%	諏訪町	21 名	4 名	19.0%
青葉町	21 名	2 名	9.5%	野口町	31 名	9 名	29.0%
久米川町	39 名	5 名	12.8%	美住町	30 名	5 名	16.7%
恩多町	41 名	3 名	7.3%	富士見町	53 名	5 名	9.4%
萩山町	64 名	9 名	14.1%	廻田町	15 名	3 名	20.0%
栄町	49 名	7 名	14.3%	多摩湖町	16 名	1 名	6.3%
本町	24 名	4 名	16.7%	合 計	449 名	60 名	13.4%

※塾員数は 2023 年 4 月現在で塾員センターに登録されている人数を表示しています。

会員数は全会員(72 名)から東村山市以外に在住の会員(8 名)および準会員(4 名)を除いています。

VII 編集後記

東村山に三田会を創設するとのお誘いをいただき準備会に出席しましたが、市内にこんなに多くの塾員がいるのに驚きました。会社員時代は、家には寝に帰るだけで地域の知己もほとんどいないため、いい機会だと参加することにしましたが、私が編集者をしていたことから会報の担当を依頼されました。

私が現役のころは、作家の原稿は自宅に取りに行き、すべてが手書きの生原稿でした。その後 FAX やコピー機が登場し楽になったと思いきや、初期のころの FAX は紙詰まりやページが跳んでしまうなど、結局いつも機械の前に付いていなくてはならないような有様でした。さらに、遅筆の作家は、目の前にいないことをいいことに、FAX から吐き出されるのは言い訳や詫び状ばかり。締め切り間際のあのドキドキ感は今もトラウマになっています。

会報の原稿集めであのドキドキがまた甦るのは嫌だなと当初は思っていました。皆さん締め切り前には入稿してくださいましたので胸をなでおろしました。

会報第一号は、PC 初心者の私では手に余る状況でしたが、幸い若手会員の協力によりなんとか発刊にこぎつけることができました。

今はメール入稿が当たり前ですし、会報も HP で掲載と日進月歩しています。田中幹事長のご尽力で作成された HP の充実で、会報のバックナンバーもすぐに参照できますし、各同好会の活動状況も沢山の写真入りで見ることができ、各催し物も臨場感あふれる体験ができます。

これらのデータベースを活用することで 10 周年記念誌もつつがなく編集を終えました。

チャット GPT など PC はますます進化を遂げるでしょう。そろそろ「老兵は死なず、ただ消えるのみ」の心境で、若い会員に担当を引き継いでいただきたいと思っています。

10 周年記念誌編集委員 廣田眞一

勤務していた会社を 60 歳でリタイヤしようと考えていた時期に、東村山三田会発足の案内をいただき、リタイヤ後のぼけ防止と地域での仲間作りによいと思入会しました。いまだにぼけず、東村山で慶應義塾という同窓の先輩、後輩の仲間作りができていますので、その目的は今のところ達成できているようです。

現在、幹事長と麻雀同好会世話役をさせていただいていますが、現役の頃から比べると格段に小さな負荷で、丁度よい程度の頭の体操になっています。また、同好会活動では、麻雀、俳句、ボウリング、食べあるく会で楽しませてもらっています。とかく外出の機会が少なくなるリタイヤ後の生活により刺激をいただいています。

10 周年記念誌の発行に際しては、多くの方々にご協力いただき完成したものであり、原稿をお寄せいただいた方、写真や資料をご提供いただいた方に感謝いたします。

この記念誌が、東村山三田会の次の 10 年、20 年に向けてよりいっそう活発な活動を推進する一助になればと期待しています。

10 周年記念誌編集委員 田中康之



Keio University



東村山三田会創立 10 周年記念誌
2024 年 4 月発行